

令和4年度の行財政改革の取組について

栗東市

チェック機能の強化と効果的なPDCAサイクルの確立

今まで取り組みが弱かったとされてきた「チェック機能」の強化を図るため、令和4年度以降の実績の評価体制の見直しを行い、効果的なPDCAサイクルを推進するための仕組みを確立します。

- A.各所属で年度ごとに重点的に取り組む事項を定める。
- B.重点取組事項を踏まえ、年度推進計画を作成する。

- A.重点取組事項の設定
- B.年度推進計画の作成



- A.各部局で取り組みを進める。
- B.栗東市行財政改革推進本部専門部会を設置し、専門的な事項についての調査・研究を行う。

- A.個別取組事項の実施
- B.専門部会の設置



- A.取組事項の改善
- B.取組事項の見直し



- A.評価結果を踏まえ、取組事項の改善を図る。
- B.評価結果や社会情勢の変化等を加味して、取組事項が適切ではないと考えられる場合は、見直しを行う。



- A.内部評価（一次評価）
- B.外部評価（二次評価）

- A.主管課・専門部会・行財政改革推進本部の3段階に分けた内部評価を実施する。【**チェック機能の強化**】
- B.外部委員からなる行政改革懇談会を開催し、外部評価を実施する。また、開催周期の見直しを図る。

進捗管理(PDCAサイクル)

行財政改革を着実に実施するため、『Plan(計画策定)－Do(実行)－Check(評価・検証)－Action(見直し・改善)』のサイクルによる進捗管理を行います。

Plan(計画策定)

- 行財政改革に取り組む視点として「協働」、「行政サービス」、「人材・組織力」、「財源確保」の4つの視点を掲げ、それぞれに項目を設定していますが、全ての項目を同時に取り組むことは難しいことから、各所属で年度ごとに重点的に取り組む内容(重点取組事項)を設定します。
- 各所属の重点取組事項を踏まえ、年度推進計画を作成します。

Do(実行)

- 重点取組事項及び年度推進計画に基づき、各部局で取り組みを進めます。また、様々な外部要因のほか、行政改革大綱や行財政改革の趣旨に基づき、必要性のある事業が新たに発生した場合は、関係部局との協議により実行に移します。
- 事務事業の見直しや行財政改革の取組を具体化・充実する作業を進めるために、庁内横断ワーキングチーム(専門部会)を設置し、組織横断的・集中的に取り組みを進め、専門的な事項についての調査・研究を行います。

進捗管理(PDCAサイクル)

Check(評価・検証)

○ これまで取り組みが弱かったとされる「チェック」機能を強化するため、3段階に分けた内部評価を実施します。

【一次評価】

- ① 「主管課」が、年度推進計画の取組項目ごとに4段階で自己評価を行い、その理由を記載
 - ② 主管課の自己評価を「専門部会」でチェックし、評価
 - ③ 専門部会の評価を踏まえ、「行財政改革推進本部」で最終的な一次評価を実施
- 行財政改革の実効性を高めるとともに、開かれた行財政改革を推進するため、外部懇談会(行政改革懇談会)を開催し、内部評価を懇談会に報告することで外部評価を受けることとします。**【二次評価】**
また、外部懇談会の開催周期の見直しを図り、より効果的な進行管理が行われるようにします。

例年:12月頃の開催 ➡ 8月～10月頃を目途に1回目の開催・2月～3月頃を目途に2回目の開催

○ 評価の結果については、HPで公表を行います。また、専門部会や各所属に評価結果をフィードバックします。

Action(見直し・改善)

- 内部による一次評価、外部による二次評価を踏まえ、取り組みの改善を行います。(既存取組事項の改善)
- 評価結果や社会情勢の変化等を加味して、現在の取り組み事項だけでは適切ではないと考えられる場合は、見直しを行います。(新たな取組事項の設定)